

工学院大附



2020年5月、校庭グラウンド道路際に屋内練習場が完成した。チームは、校庭グラウンドと屋内練習場のほか、工学院大の野球場も使用可能。屋内練習場完成によって都内屈指の練習環境が実現した。今春には練習場にwi-fiが設置される予定で、野球部のIT化も進みそうだ。



「結」



昨夏は時間制限で涙 新たな歴史へ個性派集結

1991年夏の西東京大会でベスト4に進出した実績を持つ工学院大附。八王子の丘陵地のグラウンドで力を蓄えるチームは、昨夏の西東京大会で時間制限敗退となった3年生の思いを背負って戦っていく。

■夏の独自大会はベスト16

夏は突然の幕切れとなった。1回戦で和光、2回戦で小平南、3回戦で聖パウロ学園に勝利し4回戦では優勝候補・創価と対戦した。5回まで3対4の状況下、6回表に3対8とされたが、その裏に山本悠太(3年=捕手)の走者一掃2塁打などで4点を奪い7対8に迫る。創価はエース森畑侑大をマウンドに送り逃げ切りを図る。8強入りをかけたゲームは激戦となったが、工学院大附の敵は創価だけではなかった。独自大会は試合開始2時間20分経過以降に次のイニングへ進まないという規定があったが、時間制限に

よって8回裏の攻撃が最後になった。工学院大附は、9回を戦うことなく無情にも敗戦が決まった。先発した渡邊大輝(3年)は「自分が失点したあとみんなが取り返してくれてあと1点まで迫ることができた」と感謝を伝える。最後の打者となった山本は「あと1点だったのに、試合が終わってしまって悔しさが残りました。2年生には僕らの分まで戦ってほしい」と、後輩たちに夢を託した。

■3年生の戦いを継承する
新チームをまとめる岡崎泰成主将(2年=内野手)は、島崎龍斗(2年=投手)、並木勇吾(2年=投手)と一緒に昨夏もベンチ入りし、3年生たちとともに戦った。創価戦6回裏に4点を奪った攻撃、7・8回のベンチの雰囲気、すべてが印象に残っているという。岡崎主将は「3年生たちは、ベンチの選手全員が一体になって戦っていた。僕たちも3年生の戦いを継承して、先輩たち以

上の結果を残したいと思います」と力を込める。

■チームのスローガンは「結」

今年のチームのスローガンは「結」。部員全員の気持ちを一つに“結”び、“結”果を残すことを意味している。昨年秋季大会は、予選で目黒日本に敗れ、自分たちの甘さを痛感した。2021年の夏へ向かうチームは、昨夏の創価戦で好投した右腕・島崎、左腕・並木の両投手が軸。島崎、並木ともに伸びしろが大きく、今夏の注目選手になる可能性が高い。工学院大附は、左右のダブルエースを軸に春・夏の進撃を狙う。威力あるストレートを投げ込む島崎は「どんな相手にもストレートで勝負できるピッチャーになりたい。先輩たちがベスト16だったので、自分たちの代でベスト8以上に行きたい」と夏へ向かう。個性あふれる選手が集う工学院大附は、2020年夏の悔しさを糧に、夢の続きを追いかけていく。



投手を中心にリズム作る

「ピッチャーの島崎龍斗と並木勇吾が2020年夏を経験しているのが大きな武器です。投手力があるので守備でリズムを作り、打撃につなげていきたいと思います。秋は自分たちの力を発揮できずに負けてしまったので春・夏に結果を残したいと思います」



右と左のダブルエース 島崎龍斗(2年)、並木勇吾(2年)



工学院大附・雨宮 啓太監督 選手たちの自主性が大切

「昨年2020年春はコロナで自主練習の時間が続きましたが、選手たちがパワーアップしてグラウンドに戻ってきてくれました。選手たちの自主性が大きな力になることをあらためて教えてもらいました。伝統を守りながらチャレンジしていくことで、新しい工学院大附の野球を確立したいと思います」

1983年東京都生まれ。工学院大附一日体大。現役時代は外野手。八王子シニアで指導者の道へと歩み出し、2013年に母校の工学院大附の野球部顧問、2016年秋に監督就任した。

工学院大学附属高校

【住所】東京都八王子市中野町2647-2 【創立】1944年 【甲子園歴】なし
八王子に拠点を置く工学院大の附属高校。広大な敷地に、デザイン性の優れた施設が並ぶ。野球部は1991年夏ベスト4。主な野球部OBに元福岡育成の八木健史。